



# 3月園だより

2024年3月  
尚徳福祉会  
沼袋西保育園  
園長 ○○ ○○

いよいよ、今年度も最後の月となりました。この一年で大きく成長した子どもたちの姿をうれしく、頼もしく感じております。

子どもたちは「あかりをつけましょぼんぼりに・・・♪」とひな祭りの歌を元気に歌っています。園内には個性豊かな雛人形が飾られています。ひな祭りが終わったら、いよいよ卒園・進級です。

一年間、一番のお兄さんお姉さんとして頑張ってくれたゆり組さんと過ごせるのもあとわずかとなります。保育園生活最後の遠足やお別れ会で楽しい思い出をたくさん心に刻んで、新しい学年への一步を踏み出して欲しいと思います。

今年度も沼袋西保育園の子どもたちが健やかに大きく成長をすることができましたのも、保護者の皆様のご理解、ご協力、ご支援があったのことに、深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。次年度もどうぞよろしく願いいたします

## ☆3月の予定☆

- 1日(金) ひなまつり・避難訓練
  - 4日(月) 乳児身体計測
  - 5日(火) 幼児身体計測
  - 6日(水) 0歳懇談会
  - 7日(木) 卒園を祝う会総練習  
1歳懇談会
  - 8日(金) 2歳懇談会
  - 14日(木) 0歳児健診
  - 16日(土) 卒園を祝う会(ゆり組)
  - 21日(木) 5園交流(ゆり組)
  - 22日(金) 幼児お別れ遠足(幼児組)
  - 28日(木) 0歳児健診
  - 29日(金) おわかれ会
- ※4日・18日の月曜日、英語であそぼう(幼児組)

## ☆4月の主な予定☆

- 1日(月) 入園進級を祝う会
  - 2日(火) 避難訓練
  - 9日(火) 幼児身体計測
  - 10日(水) 乳児身体計測
  - 15日(月) 0歳児クラス懇談会
  - 18日(木) 春の健診(幼児組)・0歳児健診
  - 23日(火) 1歳児クラス懇談会
  - 24日(水) 2歳児クラス懇談会
  - 25日(木) 春の健診(乳児組)・0歳児健診
  - 26日(金) 子どもの日の会
- ※8日・22日の月曜日、英語であそぼう(幼児組)

## ☆お知らせ・お願い☆

〇2月に行われました幼児組保護者懇談会にご参加いただきました幼児組保護者の皆様、お忙しい中のご参加ありがとうございました。3月には乳児組の保護者懇談会を予定しています。沢山のご参加お待ちしております。

〇3/16(土)は卒園を祝う会を執り行います。ゆり組17名の晴れ舞台です。成長を嬉しく思う反面、寂しい気持ちも隠せませんが、卒園する日まで、充実した日を過ごして参ります。

〇3/18(月)～各クラスとも進級に伴って移行期間に入ります。環境が変わることで不安なことも出てくるかと思えます。お子さま一人ひとりの気持ちに寄り添いながら進めてまいります。気になることがございましたら担任までお声掛け下さい。保育室移動にあたり、3/15(金)までに一度すべての荷物のお持ち帰りをお願いいたします。移行に関するお知らせは、後日配信予定のメールでご確認下さい。靴箱は4/1～移動となります。

〇3/22(金)は幼児組お別れ遠足です。慣れ親しんだ〇〇公園でゲーム等をして楽しみます。お弁当のご協力、どうぞよろしく願いいたします。

〇新年度より、児童票、緊急連絡先、保育時間、土曜保育、家庭保育等に変更がある場合などは、担任までお申し出ください。

# コンピュータにはできない 能力を育てる



主婦の友社 3～6歳 能力を伸ばす 個性を光らせる  
東京大学名誉教授 汐見 稔幸

## これからの社会で 必要となっていく能力とは

いまは社会の変化が速すぎて、子どもをどう育てていけばいいか、わからなくて不安になります。でも、これからの社会においては、子どもの個性は間違いなくたいせつになってくるでしょう。

ハーバード大学教授で認知心理学の研究者であるハワード・ガードナーが提唱した「多重知能理論」という考え方があります。

これまでは人間の能力のうち、計算や記憶が正確であることや、倫理的能力が重視されてきました。しかし、器用にもものを作ったり、落ち込んでいる人を励ましたり、じょうずに踊ったり歌ったりする能力をもっと評価してもいいのではないかとガードナーが提案して話題になりました。人間の知能をもう少し広く考えて、もっとアートフルな学力、たとえば人間を感動させる能力などを認めていくことが大事だということです。

なぜかという、コンピュータが一般化する会社ではコンピュータができることを人間が追いかけてもたないからです。計算が速くできるとか情報をたくさん蓄えておくことはコンピュータがやってくれるからです。**アートフルな判断ができる能力を育てる**

あとしばらくの間、コンピュータがいくらがんばってもできないことは、価値判断でしょう。

たとえば、ある部屋に入ったときに、「この部屋は落ち着くわね」ということはコンピュータにはわかりません。「この色の配分がいい」というのは非常に直感的なもので、もしも部屋が落ち着かないときにも、「この色に変えてみたら、部屋が落ち着いてよくなった」ということを判断する能力は、人間にしか備わっていません。

人工的な環境になっていく世の中で、「こういうふうにしたら、もっとおもしろくなる」「ここを丸くしたら、もっときれいになる」というアートフルな判断ができるのは、実は芸術的知性であり、これから最も必要な学力になってきます。

「コンピュータができることはコンピュータにまかせて、コンピュータにできないことをする」というふう切りかえていかないと、これからはいい仕事はできないでしょう。

## 自分の「好きなもの」が わかる子どもに育てる

これからはますますあふれんばかりの膨大な情報の中で生きていくことになります。情報に振り回されないためには、自分なりに「こういうのが好き」「こんな世界にこだわりたい」というものを早くから見つけさせてあげることがたいせつになります。

そのためには「その子らしさ」を大事にしてあげて、「その子の感情を否定しない」ことです。

「ぼくはこの服がいい」と言ったとしたら、「そう、おもしろい服が好きなのね」と言ってあげます。

「なんでそんなものを着るの。センスがないわ」と言ったら、子どもは感情を否定されたこととなります。何かに対

しての感じ方にその子の個性が出てくるのです。

自分の感じ方に自信が持てるように、子どもの感じ方をいつも「おもしろい」「この子らしい」と肯定してあげてください。

## 考える力を伸ばすのは遊びの豊かさ

自分なりに考えて、自分でしっかり価値判断ができることも大事です。

人間は「もっとこうしたい」「やってみよう」と思う時に、考えます。考えたことをやろうとして、考える力が伸びるわけです。幼児期の子どもは、遊びを発展させようとして一生懸命に考えますから、遊びの豊かさが考える力を伸ばします。

いまは、豊かに遊ぶ素材が減っています。舗装された道路では遊びにくいものです。昔の道なら草が生えていたりミミズが出てきたり、わきを流れる小川に沢ガニがいました。これをつかまえてみよう、ここを掘ってみようなどと、いろいろな発想が生まれるきっかけの多い環境でした。

でも、いまは違います。だからこそ、親は部屋にこもっていないで、子どもを散歩に連れ出したり、休日は自然の中へ出かけ、工夫して木登りをしたり、川で遊んだり、あるいは花びらや木の実やドングリ、葉っぱなどを拾ってきて色水を作ったり、画用紙にデザインしたり、オブジェを作ったりしてほしいのです。

自然の中には、子どもが一生懸命に考えたり、工夫したり、チャレンジしたりするきっかけがたくさんあります。そのたびに、頭が訓練されているわけです。

また、子どもは体験がなければイメージがわきません。ものごとを理解していくときに、自分の体験した世界から考えるのです。体験がないと、イメージの世界ののっぺらぼうで、においのない世界になってしまいます。

たとえば「オオカミはとうとう谷底へまっさかさまに落ちていきました」と絵本で読んで、谷底を見たこともなく、谷底をのぞいて足がすくむ思いをしたことがなければ、落ちていくときのゾッとするような感覚は想像できません。自分で経験したことが多ければ多いほど、いろんなものごとがわかる土台が広がるわけです。

## 体ぐるみでわかっている賢さ

ほんとうに賢い、というのは、経験をたくさんして、経験知を豊かに持っていて、その経験知をどんどん整理して組み合わせ、高度にしていくということです。それが学ぶということです。

経験知だけでは深まりはありませんが、そこを耕していくのが考えることです。

大人になって、関係ないと思ったものがつながってくるとうれしいものです。そうやってじょうずにつなげていける能力を「教養」といいます。

いま、日本では、学力低下がおこっているといわれますが、それは経験知が減ってきていることも、大きな原因であるといわれています。体験して、感動して、美しかった、不思議だった、こわかったという経験がどれだけ多いか、それによってものごとを理解するベースがつけられていきます。体ぐるみでわかっている賢さ、いいかえれば「経験知が豊かになる賢さ」こそが、人間の知識の基本です。